『主語と述語の対応をみる』

準備するもの　教科書　６４ページ～６５ページ

（ １ ）この単元では、『主語』と『述語』について学習します。まずは、『主語』と『述語』について復習しましょう。（二年生で学習しています。）

〇主語

〇述語

「だれが」「何が」をあらわす言葉。

「どうする」「どんなだ」「なんだ」をあらわす言葉。

　　（問）次の文の「主語」に線、「述語」に二重線を引きましょう。

1. 林さんが当番だ。　　　　　②　　あれがいわし雲だ。　　　③　　先生が話す。

（ ２ ）次の文の主語と述語を抜き出してみよう。

　ぼくの将来の夢は、みんながよろこんでくれる

ゲームを作りたいです。

|  |  |
| --- | --- |
| 述語 | 主語 |
|  |  |

　　　※この場合、主語を「夢は」（ぼくの将来の夢は）、述語を「作りたいです。」（ゲームを作りたいです。）にすると、「夢は作りたいです。」と不自然な文になります。このようなことを「主語と述語が対応していない」言います。つまり、この文は主語か述語を書き直す必要があるあやまった文章です。

（ ３ ）どのように書き直すとよいか考えましょう。主語はそのままにして、主語につながる述語を書き込みましょう。

　ぼくの将来の夢は、みんながよろこんでくれる

ゲームを　　　　　　　　　　　　　　　。

**困ったときのヒント！**

◎主語を「ぼくの将来の夢は」とすると、何が将来の夢なのかといえば、「ゲームを〇〇〇〇。」ですね！

「作りたいです。」の述語を変化させると自然な文になりますね！

（ ４ ）次に、述語の「なりたいです。」をそのままにし、主語の「私の将来の夢は」を書き直してみましょう。

　　　　　　　　、将来、みんながよろこんでくれる

ゲームを作りたいです。

**困ったときのヒント！**

◎「ゲームを作りたいのはだれか」ということを考えて主語を直せば、主語と述語が対応した文になります！

！

　　※このような文のあやまりは、みなさんの書いた文章にもみられるかもしれません。文章を書き終わったら、主語と述語が正しく対応しているか、よく見直してみましょう。

（　５　）教科書六十五ページ下段の問題をやりましょう。

（　６　）今日の学習をふりかえってみましょう。（できるようになったことやわかったことを書いてみましょう。